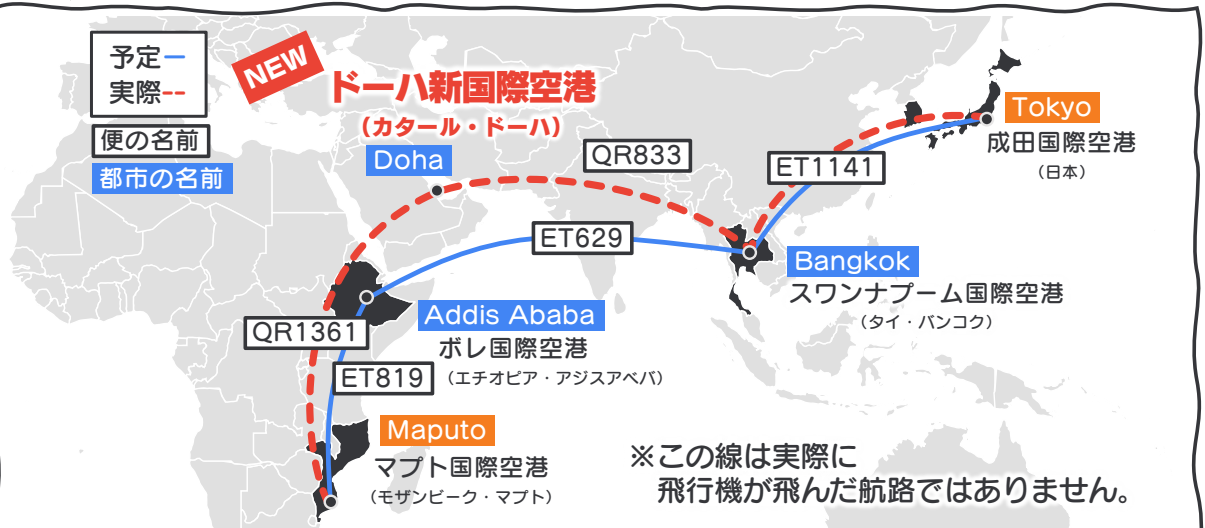




モザンビーク共和国の記録



1日目 現地時間：8月10日(木) 担当：山端 研人 (やまちゃん)

青森県から東京駅、さらに成田国際空港に向かいました。その日の青森県は、弘前市で最高気温が39℃という観測史上最高気温でした。青森よりも暑いことを覚悟して東京へ行きましたが、予想に反して東京の方が涼しい感じがしました。

時間	できごと
16:00	成田国際空港 集合
18:30	飛行機搭乗
23:30	日航ホテル成田で宿泊



👉 高速バス



👉 成田国際空港 (千葉県)



👉 搭乗したANA (全日空) の飛行機

バンコク行きの飛行機に登場しましたが機材トラブルで離陸できず、駐機場に引き返しました。予定通りにバンコクに行けませんでしたので、その後乗るはずだった2つの便に乗れませんでした。「もし無事に飛んでいたら、今頃どの辺だったか？」と考えながらも、今後、どうなるのか全くわからず、不安な状況でした。それでも、明日朝の6時には成田空港に行かなくてはならないため、早く寝ることにしました。

2日目 現地時間：8月11日(金) 担当：渡邊 彩香 (なべか)

早朝ホテルを出て、成田からバンコク行きの便に乗りました。空港での待ち時間でタイ料理などの文化に触れることができました。その後バンコクからドーハ行きの便に乗りました。

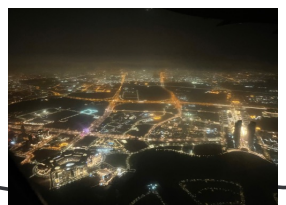
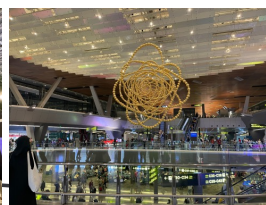
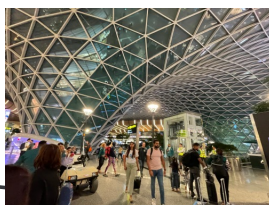
ドーハの空港内には植物園や空港内の移動に電車がありゴージャスでした。

トイレの横にお祈りをする部屋がありました。

空港にいる人たちの服装からも様々な文化が垣間見えました。言語が違って、ピクトグラムがあるととてもわかりやすいことを実感しました。



時間	できごと
8:30	成田国際空港 発
13:15	バンコク 着 (スワンナプーム国際空港)
21:05	バンコク 発
23:55	ドーハ 着 (ドーハ・ハマド国際空港)
02:30	ドーハ 発
09:25	マプト 着





モザンビーク共和国の記録

3日目 現地時間：8月12日(土) 担当：齋藤 暢 (ジェリー)

仙台の家を出発してから56時間

ようやくモザンビークに到着



最初に驚いたのが、首都マプトには日本車がたくさん。トヨタ、ホンダ、日産、日野、車に詳しくない自分も見たことある車が至る所に。



本当に同じ国なのかというくらい短いスパンで変わっていく景色。

その中でも2018年中国企業が建設をしたマプト大橋は全長3km、アフリカで最も大きい吊り橋で、目を見張るほど美しい。

次に驚いたのが、車窓からも分かる地域格差。高層マンションがあれば、路上で商売をしている方もたくさん。ゴミもあちらこちらに。



モザンビークでの最初のディナーは、日本のODAで建設したマプト魚市場で。魚、エビ、イカ、アサリ、ハマグリなど新鮮な魚介類はどれも絶品。

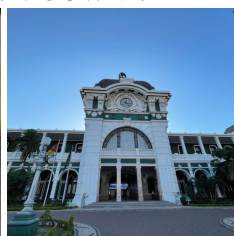
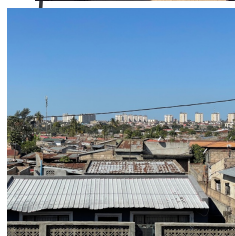


そんな中、ピーナッツを売りに来る小学生くらいの少年に幾度となく声をかけられる。少年の履いているサンダルはボロボロで壊れていて。ただ少年の目からは「買ってくれ」という気持ちが表れていて。日本では見ない光景で。心が苦しい。

4日目 現地時間：8月13日(日) 担当：江本 真理子 (まりー)



モザンビークの部族の異なる言語、都市交通、ポルトガル領時代からの歴史、人種隔離など、圧倒されるほどの豊富な内容のお話を小林次長さんより頂いた。



アフリカ=貧困、という偏見を取り除くというコンセプトのもと、スラム街を訪れ、人々の生活圏を巡り、彼らがいかに平和で穏やかに各々が生活を楽しんでいるかを肌で感じた。

大学生4名は大変勉強熱心で、将来のモザンビークにとって何が大切か、についてダイヤモンドランキングで考えてもらったところ、日本人とは全く異なる結果となり、両国の抱える課題と良さについて理解が深まった。



時間	できごと
8:30	ホテル 発
8:50	JICAモザンビーク事務所 着 モザンビークで活動する協力隊、職員、専門家の方に対面。
9:00	次長 小林さんより 本日のツアーブリーフィング
9:30	モザンビークの都市の成り立ち、地理歴史経済、見所について
11:00	Mafala地区 訪問 地元ガイド同行のもと博物館、コミュニティツアー
13:30	モザンビーク伝統食のランチ
14:30	Baixa地区 訪問 市庁舎、大聖堂 北朝鮮寄付による初代大統領像 世界で10番目に美しいマプト駅
16:30	モザンビークのNGO団体所属大学生4名を交えた意見交換

モザンビーク
Mozambique é
マニンギ
maningue nice!



モザンビーク共和国の記録

5日目 現地時間：8月14日(月) 担当：山端 研人 (やまちゃん)



時間	できごと
7:30	ホテル発
9:00	ボアネの初等教育学校 協力隊員の富井さんによる説明 小学生との交流・インタビュー
13:00	職業訓練校(IFPELAC) 各学科の授業内容などの説明 教職員との意見交流の富井さ

ボアネの初等教育学校(コミュニティスクール)では、体育の授業の様子を視察した。ポルトガル語バージョンのラジオ体操を皮切りに、現地の遊びや日本の遊びを子ども達と一緒にに行った。日本を出発して5日目。国は違えど徐々に子ども達の笑顔や純粋な反応を見て、安心感と共にモザンビークで暮らす子ども達の生活や教育環境への興味・関心がさらに深まった。



初等教育学校に続き、マプト市内の職業訓練校(IFPELAC)を訪問した。この学校は車両整備に始まり、水道・冷房・電気設備など複数の学科に分かれて、受講料を払って入学した生徒に向けて基礎的知識を教えている。校内には、至る所にJICAの支援によって導入された教材があり、5Sなどの日本の工場で使われている整理整頓などの心構えも掲示されていた。

5日間、様々な面からモザンビークを学ぶ中、この国では日本における中世から近世にかけての諸産業の発達や近代産業革命などの産業基盤がそもそも存在せず、歴史的背景や広大な国土や多様な民族・言語、低い識字率など、様々な要因で発展が遅れてきたことがわかってきた。それに対して、今回訪問した職業訓練校(IFPELAC)では、あえて最新・高度な産業技術ではなく、国の発展につながる産業基盤強化のための支援が行われていることが推察できた。また、見学後は職員とのディスカッションを行い、今後のモザンビークの成長への期待と共に、現地の所得と学費のギャップや支援のミスマッチ、自立の難しさなど問題は山積であることも実感できた。

6日目 現地時間：8月15日(火) 担当：佐藤 菜月 (なつちゃん)

教育庁への訪問では、モザンビークが抱える教育の課題が山積みで、どの課題も深く複雑に結びついていると感じた。また、副教科の必要性や重要性、これからのモザンビークで求められる教育の在り方などが明確になっている状況に対し、設備や教員の質、経済的な部分などの不足があり、求められる教育に対する実情の深刻さが、垣間見えた。



時間	できごと
8:00	ホテル 発
9:00	教育庁 着 (株) コーエイリサーチ&コンサルティング(新しい学校教育制度に対応したカリキュラム普及プロジェクト)、担当者国家教員養成担当の方、国家教育局長の方と対面。プロジェクト概要とモザンビークの教育概要についての説明・質疑応答。
9:30	岡本さんとの対面
10:00	教育庁 発 マニッサへ移動
12:30	マニッサ 到着 協力隊中山さんと対面。中山さん、プロジェクトメンバーとの昼食
13:30	畑へ移動 視察の予定だったが、道路状況により、視察を断念
15:30	ココナッツオイル加工場 見学
16:00	マニッサ 発 シャイシャイへ移動
18:00	シャイシャイ 着

👉 マニッサのココナッツオイル加工場

ここでも私たちを非常に温かく迎えてくださった。ココナッツをオイルへ加工したり、果物をジュースやアルコールへ加工したりする彼らからは、本当の幸せとは何かということを考えさせられた

工業化すれば、大量生産でき、経済的に豊かな生活が待っていることは間違いない。しかし、果たしてそれを彼らが望んでいることなのか、そらが本当に彼らの幸せへ繋がるのか、深く考えさせられた。いきいきと説明する彼らの姿から、豊かさとは何か、幸せとは何か、先進国に住む私たち自身も問い直さなければならぬと感じた。



モザンビーク共和国の記録

7日目 現地時間：8月16日(水) 担当：渡部 真奈美 (まなみん)

中等教育学校では、金田隊員の活動の説明と、現地の理科の先生方が行う実験を見学させていただいた。実験に慣れない先生の様子から、求められる教師の質の向上を推進することの難しさを感じた。実験室も普段は普通教室として使用しており、教室や設備の不足という課題を強く感じた。



ホテルで辻様から、JDRの活動について、具体的にお話を聞かせていただいた。国際協力に対する熱い思いと行動力に感服した。

行程中、路上で何度も現地警察の検問の場面がな荷物チェックを受けたりする中で、身の危険を感じる場面もあった。警察に対する給料未払いが原因と聞いたが、警察の信頼が失われることは国内秩序の崩壊につながり、外国人観光客にとって不必要な

恐怖を与えることは、観光振興を妨げる以外の何ものでもない。貧困、教育、公正と平和について、深く考えさせられる一日であった。

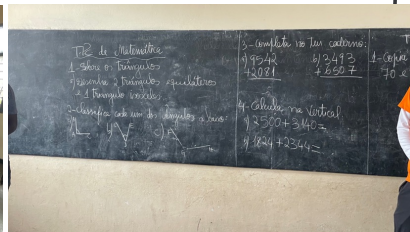
時間	できごと
8:10	ホテル発
9:00	ジョアキンシサーノ中等教育学校訪問 金田将裕隊員が現地教員対象の研修で行っている化学の実験の見学、ジョアキンシサーノ中等教育学校の先生及びガザ州教育局の先生との意見交換、校舎見学
11:00	金田隊員の生活拠点・周辺の見学
16:00	岡本様とのオンラインセッション
18:00	マプト空港 発
19:30	ベイラ空港 着
21:00	辻様より「サイクロン 第2次隊の活動」について

8日目 現地時間：8月17日(木) 担当：高橋 真由美 (まゆゆ)



ベイラ市の被災、復興について(バスの車窓から)街の様子をJICA辻氏の解説を聞き、理解を深めた。ベイラ市×東松島市サイクロンイダイ被災地域のプロジェクトについて、復興担当者との意見交換を行った。防災教育や東日本大震災について情報交換する中で、日本の震災や復興の知見がいかにされているかを知った。その後、復興後の市街地をモザンビーク防災に関わる方々と視察した。

時間	できごと
8:20	ホテル 発
9:15	ベイラ市役所 着 ベイラ市×東松島市サイクロンイダイ被災地域「強靱化プロジェクト」復興担当者との意見交換
10:30	市内視察
11:00	Macurungo初等教育学校 到着 校内施設見学、授業参観 先生方との意見交換
15:00	ベイラ空港 発
16:30	マプト空港 着



JICAの支援により被災後、防災強化されたMacurungo初等教育学校を視察した。校舎は木組みで修復されおり、バリアフリーのトイレも完備されていた。机や椅子などが不足している状況ではあるが、生徒達は夢を持って、生き生きと学んでいる姿が印象的であった。

教育委員会の方を混えながら、モザンビークの先生方と意見交換を行った。モザンビークでは、「読み・書き」の基本的な学力を身につけさせることも難しい現状がある。日本とモザンビークの教育環境には違いがあるものの、抱える課題に共通点もあった。モザンビークの教育に日本がいかに支援できるかを深く考える交流となった。

